

小田原急行鐵道の 開通と今後の事業

編輯部記者

帝都を起點とする郊外高速度電車鐵道の建設は近代人の最も痛切に要求する處なりしが、此點に於ては常に大阪市方面に一步を先んじられ未だ東京方面にて完全なる高速度郊外電車を見るに至らざりしが、今回遂に小田原急行鐵道の完成を見るに至れり。

創立の沿革

同社は大正十二年五月資本金千參百五拾萬圓を以て創立、新宿驛を起點とし原町田、厚木、伊勢原、秦野を經小田原に至る五十一哩間に高速電氣鐵道を敷設せるものにして、新宿登戸間約十哩は複線他は單複混合にて運轉す。尙ほ時勢は全線複線になすの必要を促し遂に昨年倍額増資を執行し、之れを複線工事費と江の島線工事費に充當し、尙ほ土地會社を併せ資本總額を金參千萬圓とすの決議をなせり。

箱根小田原方面と東京との交通は近時益々頻繁となり東海道線のみにては到底満足する能はざるのみならず叙上各町村の發達殊に著しく其間の交通亦益々繁劇を加ふるを見、其機運を察し鬼怒電社長利光鶴松氏此鐵道を計劃し大正九年出願大正十一年之れが敷設免許を得たるを以て直ちに會社を創立し社長となり工學士吉村惠吉氏は常務取締役として尙ほ且つ技術部長として此大鐵道完成の任に當られたり。

工事費資金關係

大正十二年の彼の大震災後は山の手殊に新宿の繁榮急激に助長し、鐵道省にても新宿を以て山手方面の中心點となし、停車場も東京驛に次ぐ大停車場となせり、地震は此鐵道の工事着手以前なりしを以て些少の損害もなく却て有利に轉回し、翌十三年に至り稍世の安定を見、同年十一月全線五十一哩を八工區に分ち工事に着手したり。震後政府の採れる緊

縮政策は勞銀を低下し材料は低落し、世を舉げて不景氣を啣つ際なりし爲めに工事費は豫想外の低廉なることを得、土木工事は勿論電氣工事の機械車輛等も亦低廉にて全線開通迄の資金千六百萬圓を以て足るの成算立ちしを以て大正十六年四月一日必ず開業せしむる目標の下に社員一同工事の進捗を圖り、工事關係者の熱誠努力と相俟つて工事は非常に能く進捗し遂に豫定の如く竣工するに至れり。

所要資金の總額金參千萬圓の内千六百萬圓新宿小田原間工事費、六百四拾萬圓同複線工事費にして七百五拾萬圓拂込金一株拾貳圓五拾錢、七百五拾萬圓社債、六百萬圓鬼怒川水電より長期借入等により支辨し工事を速成するも株主に對し頻繁に拂込を徴するここなきここなせり。

連絡設備

江の島線は昨年十月免許を得、原町田より分岐し藤澤方面に出んとするものにして、將來此線路の開通を見んか山手より同方面への乗客は必ず同社線路に依るべく、従つて此支線の完成は同社將來の社運隆興に一歩を進むるものと謂ふべきなり。

新宿小田原兩端共に鐵道省停車場を共用し乗客乗換を便ならしめ優秀車輛の輕快なる運轉は行客に非常なる満足を與へつゝあり、尙同線の左右には川崎に通ずる南武線、横濱に至る神中線、茅ヶ崎に達する相模線、其他幾多の支線ありて旅客の乗繼、貨物の集散の範圍實に廣く、加ふるに廣袤百方に亘る武相沃野の中央を縦貫し其經過する諸町村何れも商業殷盛にして貨物の集散極めて多く交通機關年來の希望茲に達せられ、會社に於ても銳意沿線の開發に努め遊園地、温泉地、其他生産貨物の増大に對し劃策を進めつゝあり。尙ほ